

オンライン Live 研修会第1弾 2020年7月31日(金) 20:00~21:00

座長：原土井病院歯科/摂食・栄養支援部 岩佐 康行

これでわかる！ミールラウンド

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 戸原 雄



【略歴】

- 2005年 日本歯科大学歯学部卒業
- 2011年 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック非常勤歯科医師
- 2014年 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科助教
- 2017年 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科講師
- 2017年 日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科(人事交流)
- 2018年 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科医長

摂食・嚥下障害を有する方や食事摂取に関する認知機能の低下が著しい患者への経口維持支援を充実させる目的で、平成18年に介護保険に導入された経口維持加算は、平成24年と27年に改定が行われ、多職種による食事の観察(ミールラウンド)やカンファレンスなどの取り組みのプロセスおよび咀嚼能力などの口腔機能を踏まえた経口維持のための支援を評価するものに改定されました。

この改定によって、施設に入居している摂食嚥下障害患者への取り組みは、多職種と協働しつつ、人間の根源的な楽しみの一つである食べるということをいかに支えていくかということが求められるようになりました。

現在、介護老人福祉施設におけるミールラウンドは徐々に広がりを見せているものの、介護老人保険施設、在宅における医師、歯科医師と栄養関連職種の連携は全国的にみて十分に進んでいるとはいえない状況にあり、今後も増加する摂食嚥下障害を有する要介護高齢者の支援において、われわれ歯科医師は重要な役割を担う職種といえます。

ミールラウンドは特別な道具を必要としません。ミールラウンドで必要なのは嚥下の精密検査を行うための設備ではなく、患者の食事の場面を外部観察した際、問題は患者の食べ方にあるのか、嚥下機能にあるのか、環境にあるのかを評価すること、そして問題点に対しての対応策を立案することです。

問題点に対しての対策は患者の入居する施設の職員に行ってもらうことがほとんどです。そのため、ミールラウンドで得た情報は施設における多職種と共有を行うことが重要です。

また施設によって環境やマンパワーは大きく異なるため、多職種と協働して行うカンファレンスにおいて、ミールラウンドで行う外部観察で得た情報を施設において実現可能なケアプランに構築していくというプロセスが重要になります。

今回は、施設におけるミールラウンドでの外部観察のポイント、外部観察から得られる所見からどのような対応策が有効であるかの考え方、そして多職種と協働して行うカンファレンスの進め方に関しての解説をさせていただきます。